

家庭科 科目「家庭基礎」学習指導案

授業者 富谷 朋子
 対象生徒 1年C組 13名
 日時 11月29日(木)5校時
 教科書 東京書籍
 「家庭基礎～自立・共生・創造」

- 1 単元名 第8章経済生活を営む 6 これからの消費生活と環境
- 2 目標 生活と環境とのかかわりについて理解させ、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。
- 3 生徒と単元 男子7名、女子6名、計13名の学級である。家庭科は、高校卒業時の自立や現在や将来の家庭生活に活かすために意欲的に学習する姿勢が見られる。グループで意見を出し合って発表することはできるが、自信の無さや生活体験の乏しさから個人の意見を全体の場で発表することが苦手な生徒もいる。
 本単元では、一人一人の消費行動が地球・世界へ与える影響を理解させ、持続可能な消費行動を実践する態度を育てたい。2015年国連で採択されたSDGs（エスディーゼーズ：持続可能な開発目標）との関連についても考えさせ、個々が主体的に取り組むことの重要性を認識させたい。

4 指導と評価の計画（8時間）

学習内容（時数）	評価規準			
	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
1 職業生活を設計する 2 計画的に使う (2)	生涯を見通した家計管理の在り方について考えようとしている。		家庭経済の管理や計画に関する技術を身に付けている。	家計管理に必要な基本的な知識を理解している。
3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4 現代の消費社会 5 消費者の権利と責任 (4)	消費者の権利や消費者支援の制度に関心をもち、自立した消費者として行動しようとしている。	消費者問題の被害の防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。		消費者問題について理解している。
6 これからの消費生活と環境 (本時1/2)	持続可能な消費行動について考えようとしている。	持続可能な消費行動について考え、まとめたり、発表したりしている。		消費社会の現状と持続可能な消費の重要性について理解している。

参照：文部科学省国立教育政策研究所 評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

5 本時の計画

(1) ねらい

持続可能な社会を形成するための世界的な取り組みを知り、主体的に実践する意義と普及させる手立てについて考えをまとめることができる。

(2) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分 13:25~ 13:35	① 大量生産、大量消費、大量廃棄によって環境破壊が進行したことを確認する。 ②環境保全のために学校で取り組んでいる事例を挙げる。 ③ 『地球温暖化がそのまま進むと』 (VTR 6分)	・学校で取り組んでいるゴミの分別・節電の意義、消費行動が環境へ与える影響を再確認させる。	
展開 35分 13:35~ 14:10 (10分) (5分) (10分) (5分)	④消費行動（意思決定）について考える 【グループワーク】 数種類のティッシュペーパーとチョコレートから購入したい商品を選択し、用紙に理由を書いて発表する。 ⑤認証マークに注目し、マークの意味を確認する。その後、意思決定に変更はあるか。 〔FSC、WWF、フェアトレードマークを取り上げる。〕 ⑥認証マークが付いた商品を購入する消費者を増やすにはどうしたらよいか考える。 ⑦SDGsについて説明を聞く。(VTR1分半) ⑧17の目標から、認証マークと関連するものを選ぶ。	・普段、商品を選ぶ際に重視している項目を振り返らせる。 ・「買う」という行動が地球・世界に影響を与えていることに気付かせる。 ・世界的な取り組みを知り、グローバルな視点で消費行動を考えさせる。 ・17の目標は関連し合っており、1つの取り組みが多方面に良い効果をもたらすことに気付かせる。	【Bワークシート】 持続可能な消費行動を普及させる手立てを考えている。
まとめ 5分 14:10~ 14:15	⑧持続可能な消費行動について学習して考えたことや今後の生活で実践したい事をまとめる。		【A・Bワークシート】 持続可能な消費行動について学習して考えたことや今後の生活で実践したいことをまとめている。

評価の観点 A 関心・意欲・態度 B 思考・判断・表現 C 技能 D 知識・理解